

藤波こども園

園長だより

No. 50

令和元年7月18日

文責 竹原 篤



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

毎日、プールから園児たちの歓声が聞こえ、夏を感じる頃となりました。園舎の軒先にツバメの赤ちゃんが5羽生まれました。園バスや業者の車が出入りしているときでも、親ツバメがヒナのために一生懸命えさをはこぶ姿に子どもたちも職員も感動しています。ツバメも人間も同じで子どものためには何でもできますね。



七夕の短冊には子どもたちの純粋な願いごとが書かれていました。「〇〇ちゃんとずっといっしょにあそびたいな」「ママがびょうきにならないように」「かぐやひめになりたいな」「みんながびょうきにならないように」などと自分のことだけでなくお友だちや家族の幸せを願う内容が多くあり、とても嬉しく思いました。



月組の園児がザリガニつりをやりたいと言い出し、自分たちで持ち物や注意することなどを相談して出かけました。先生から厳しい指示や指導は一切なく、園児は伸び伸びとザリガニつりを楽しみました。ザリガニつりをやりたくない園児は園に残って違う活動をしていました。この取組より「やりたいことを夢中になってやり尽くすことの大切さ」と「やりたくない園児の気持ちを尊重することの大切さ」を学びました。また、雪組と桃組のお散歩にも同行しました。



田んぼや道にいたるかえるやバッタを「キャー・ウワー」と言いながら触っている園児を見て、この年齢の子どもたちから知ることより感じることや体験することの大切さも学びました。

ありがとうございます。 【いただきました】

- | | |
|-----------|------------|
| ①ティッシュ&お茶 | 高島町 佐藤さんより |
| ②紫玉ねぎ | 四津川 梅村さんより |
| ③タオル | 青柳 保護者宅より |
| ④青梅 | 朽木 嶋崎先生より |
| ⑤花火&折り紙 | 理事 川越さんより |
| ⑥ぬりえ帳 | 新旭町 業者さんより |

退職された調理員さんと新しくおみえになった調理員さんの紹介

川原清美さん
美味しい給食を6年3ヶ月に渡り調理してくださいました。

渡辺素江さん
5月14日から本園の調理員さんとしてお世話になっています。



保護者・先生 あれこれ

小学校に勤めていた頃に先輩から教わり、今も大切にしていることで「いつも子どもの(が)そばにいる」の続きで「親子の心のつながりで大切なこと」について書かせていただきます。

「見るから観るへ。聞くから聴くへ。話すから説すへ。」です。(「説す」は語呂合わせで「はなす」と読みますが、正しい読み方ではありません。でも気持ちはおわかりいただけると思います。)

まず、「見る」は自然に見えている。「観る」とは「観察」するように「観る」ことです。子どもの様子を観察するように見てあげて欲しいと思います。服装には変化はないでしょうか。持ち物に変化はないでしょうか。今までもっていた物がなくなっているとか。反対に買った覚えのない物を持っているとか。身体に傷はないでしょうか。そんな時、「この物、どうしたんや? 何したん? 誰からもうたん? 何で?」などのような詰問はやめてください。子どもは問い詰められると話さなくなります。気になることがあった時は、「どうしたん? 話したいことがあったらいつでも聞くよ。」というぐらいがちょうどよいと思います。大切なことは、「私はいつもあなたを見ていますよ。何でもわかっていますよ。辛くなった時はいつでも相談にのるよ。」ということが子どもに伝わっていればよいと思います。

「聴く」とは、普通に「聞こえている」のではなく、心から聴くことです。「十四の心で聞く」と書きます。「聴き方」はとても簡単です。「へえ〜。そう。なるほど。すごいね。そうなんや。」などと相槌を打ちながら聞けばいいと思います。そして時々、オウム返しをしてあげてください。「オウム返し」とは相手の言葉を復唱することです。「今日な、〇〇ちゃんとどろだんご作りして楽しかった。」と言え「そうか、今日は、〇〇ちゃんとどろだんご作りしたん。楽しかったんや。よかったなあ。」と言うだけでよいと思います。そして、嬉しかったこと、悲しかったこと、苦しかったこと、辛かったことなど、その時の子どもの気持ちをわかってあげることが大切だと思います。例えば、今日、友だちとけんかして、たたいたりあぶしたりしてしまった。「たたいたりあぶした

りすることはいけない。どんな理由があってもダメ。でも、たたいたりあぶしたりしてしまうほどがまんできなかった苦しさはわかるよ。次からぐつとがまんできるようになるといいなあ。でもあなたの辛い気持ちはわかっていているよ。」というように言ってあげてください。いけないことはいけない。でも苦しい気持ちはわかる、耐えきれなかった気持ちもわかるということです。これが共感することだと思います。相手の気持ちをわかってあげれば、次もまた話をしてくれます。聴くというのは、あなたの気持ちをわかっているということ子どもに知らせることだと思います。

(※園でよく使う「あぶ」は「かむ」という意味です。)

「説す(はなす)は当て字です。でも見ておわかりのように「説明するように話す」ということです。伝えたいことのみを短い時間で、短い言葉で、わかりやすく、子どもがよく理解できるように!!「そんなことできひん」って怒られそうですが、要はぐたぐたと長話はいらないということです。子どもはほとんど聞いていません。

「見るから観るへ。聞くから聴くへ。話すから説すへ。」このような方法で子どもを見ていくことが大切で、親と子どもの「心と心」がいつもつながっているようにしておきたいものです。



子どもにはいつも自分を見守ってくれる大人がいるという安心感がとても大切だと思います。いつも笑顔で!!